

地域連携とルーブリック評価を用いたワークショップ型演習 「建築&デザイン総合演習」の教育的効果について

The educational effect of "Joint Practice for Architecture & Design" workshop by using rubric assessment and communicating with local people.

福田一郎・堀 啓二・戸田泰男・林田廣伸・松本年史・

高橋大輔・藤本麻紀子・田中裕子・青木英明

Ichiro FUKUDA, Keiji HORI, Yasuo TODA, Hironobu HAYASHIDA, Toshifumi MATSUMOTO,
Daisuke TAKAHASHI, Makiko FUJIMOTO, Yuko TANAKA, Hideaki AOKI

1. はじめに

共立女子大学建築・デザイン学科は、生活に必要な「空間」と「もの」そしてそこで行われる「こと」を対象としてそれらを総合的に捉え、学び、あるべき姿を提案できるように主に「空間」をつくる建築コースと「もの」や「こと」をつくり提案するデザインコースで構成されている。

「空間」と「もの」は単独では機能せず、また成り立たない。必要な「空間」があってそこに必要な「もの」が入り、そこで人々が活動する「こと」が起これ初めて活き活きとした場や街となる。その「空間」と「もの」そして「こと」を生活者の立場から具体的な生活の場や街、ひいては生活そのものを提案するのが建築・デザイン学科である。

各コースは身につけるスキル「知」と「ワザ」が異なるため一年次から別々のカリキュラムで、演習（実技）を中心に授業が組まれている。しかし、二つのコースは生活に必要な活動の場を創るという点で切っても切れない関係にある。この二つのコースが遊離することなく有機的な関係を保つために、三年次に「建築&デザイン総合演習」という科目を設けている。各コース各分野の垣根を越えて横断的に繋ぐチームを編成し、互いに競い合いながら検討し、作品を

制作、提案発表するのがこの演習である。本稿は「建築&デザイン総合演習」2016年度、2017年度、2018年度の3年間の教育活動報告である。

2. 計画の目的・目標と概要

2-1. 目的・目標

共立女子大学は神保町という様々なポテンシャルを持つ街に位置する。これからの大学は地域との連携が重要な課題の一つである。「空間」と「もの」は即まちづくりに直結し、建築・デザイン学科はそれを実践できる学科であり、学生にとってもとても貴重な体験ができるシチュエーションにある。その地の利を生かし、神保町のポテンシャルを継承しながら、これからの街を持続していくために「街を元気にする」というテーマで、各チームが街を調査、必要な空間・機能・ものを抽出して、具体的な空間とそこで使用する家具やサイン等をトータルに計画し提案することがこの演習の目標である。分野を超えた制作と地域の方々へのプレゼンテーションによりコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を高めるのが目的である。

2-2. プロジェクト概要

地元神保町を題材に、神保町の歴史、資源、現状を調査分析し、良い点や問題点を洗い出し、

それを基に神保町の将来像を考えるとともに活性化できる、神保町を元気にする具体的な計画案を作成する。また、後期授業開始から約一ヶ月間で現状調査から提案・制作をして共立祭で展示発表をする第一課題と、その成果や評価を受けて新たな課題に取り組み、後期最後に地元神保町の方々をお迎えして発表する第二課題を、チームを組んで15回の演習で行った。

各年度の課題は以下の通りである。

●2016年度

・共立祭 『じんぼうチョウを探せ』

地元企業（店舗等）へのヒヤリング、街の調査を基に、すずらん通りの連続写真による再現、店舗ガイドマップを作成、展示イベントを開催。

・街を元気にする空き地プロジェクト

「じんぼうチョウ」をホストに、古本祭り等で神保町の空き地を利用し、これからの神保町を活性化させるイベントを企画した。その企画に必要な空間とツールを作成し、地元の方々にプレゼンテーションを行った。

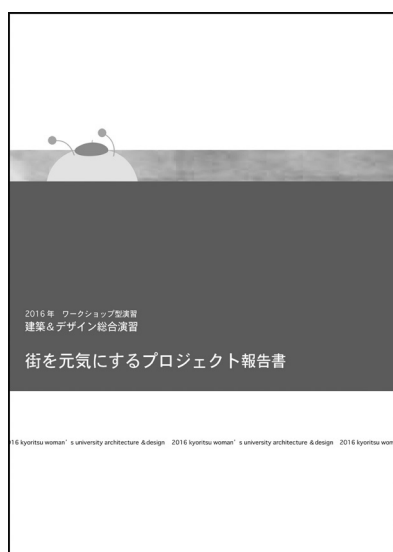


図- 1 2016年度報告書冊子表紙

●2017年度

・共立祭 『フォトコンテスト』

平成28年度の建築&デザイン総合演習で提案された5つの企画案うち、地元の方々から最も実現性が高いと評価を得た“フォトコンテスト”をベースに共立祭で実現可能な企画を3グループで提案、提案内容を学生全員で議論統合し企画を決定し、展示イベントを開催。

・『さくら通りストリートデザイン』『商業スペースを含む共同建て替え』

さくら通りを敷地とし『さくら通りストリートデザイン』『商業スペースを含む共同建て替え』をテーマに、さくら通りを活性化させるのに必要な空間とツールを作成し、地元の方々にプレゼンテーションを行った。



図- 2 2017年度報告書冊子表紙

●2018年度

小さなスケールでより実現性の高い2つの企画提案。

・第一課題：『屋台』

神保町の賑わいを作り出している店頭のワゴンやブックシェルフを発展させ、神保町の新た

なブランドの創出・既存ブランドのさらなる発展に寄与する、様々な場所で展開できる「屋台」を製作し展示。

・第二課題：『方丈庵』—小さな空間から神保町の未来をみる

共立祭での意見をもとにさらなる調査を行い「屋台」を発展させた2.73m×2.73m×2.73mの小さな空間「方丈庵」をテーマに各チームで、必要な空間・ツールをデザイン、S= 1/5の模型を製作し、地元の方々にプレゼンテーションを行った。



図- 3 2018年度報告書冊子表紙

2-3. 学習成果の達成状況の可視化と演習の到達目標

成績評価にルーブリックを用い学習成果の達成状況の可視化を行った。評価の観点に対する演習の到達目標は以下の通りである。

●知識・理解

神保町の歴史や現状の状況を調査分析し、十分理解、把握できる。

●技能

素人の方にも分かりやすく美しいプレゼンター

ションができています。

●思考・判断・表現

グループ作業の中で、役割分担をしっかりと決め、みんなで意見を統一しイベント企画に必要な物を適切に計画できている。

●関心・意欲・態度

グループ内で自ら進んで作業を行うことができる。

3. 実施における目的・目標の達成状況

3-1. 自主評価レポートにみるワークショップ形式の地域連携型授業・PBL（問題解決型授業）によるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力の向上。

建築・デザインは一人ではできない。空間や物を考えデザインする人、実際にそれを作り実現する人、そしてそれを使う人と様々な分野の異なる人達のコラボレーションで出来上がる。そのため自分の考えや考えたデザインを実現するためには、それを的確に相手に伝える能力が重要である。本演習の特徴である、各コース各分野の垣根を越えて横断的に繋ぐチームを編成し、互いに競い合いながらのワークショップ形式の作品制作は、ルーブリックの自主評価レポートの記述内容から、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力の向上に役立ったと考える。

3-2. 自主評価レポートにみるワークショップ形式の演習から得た学び—自主レポートより抜粋

・グループではみんなが率先して意見を出し合ったり、自分の得意分野を生かした活躍をしてくれた。最後の発表会はその集大成として、とても緊張したが良いプレゼンができた。

・班の皆も話しやすく、効率よく進めることができるように、役割分担をしっかりと決め情報共有をし、一人一人の能力に合った物をお互い尊重しながら企画・計画できたと思います。

・最終的にはグループで助け合い、仕上げるこ

とができ、プレゼンの際の緊急事態にも対応できチームの良さを感じれた。

・建築とデザインがグループを組むことで、お互いにできる作業を分担したりできなかったことを教えてもらい、スムーズに進めることができました。地域の皆さんにわかりやすく伝える方法も話し合うことで自分だけでは思いつかないアイデアが出ました。普段デザインの授業は一人作業が多いので、グループで相談したり協力する大切さを知ることができました。

・役割分担を明確にしたことで一人ひとりが責任を持ち、クオリティの高いものが完成できたと思う。みんなが意見を出し合うことで話が膨らんでいき、面白い企画が考えられたと思う。半年間、グループで神保町の活性化についての企画ができて楽しかった。

・今回の活動を通して改めてグループ活動の難

しさを感じ、また自分では考えつかない案が練りあがっていく過程にわくわくしました。メンバーみんなが自分の得意分野を生かしたプレゼン準備ができたのでよかったです。

・課題毎に密に連絡を取り合い、方向性を共有しながら仕事を分担して作業に取り組むことができた。また、一人ひとり意見を出し合い、スムーズに進めることができた。全体を通して連携の取れたチームだったと思う。

・今回の演習で、チームで企画をまとめることで、自分にはない新しいアイデアや刺激を受け、自分の中でも新しい発想が生まれ、とても良い経験になりました。

・ストリートデザインやベンチのデザイン、照明のデザインをデザインコースの人の力を借りて皆で意見を出し、いいデザインができた。桜の木について高さとか改めて話し合っ

2016年度「建築&デザイン総合演習」自主評価レポート

所属グループ	学籍番号	氏名	評価(教員記入欄)

■この演習の「到達目標」の各項目について、以下の評価ポイントを参考に右の評価の欄にS～Dの5段階の自己評価を記入して下さい。その理由を下段のコメント欄に書いて下さい。(字数自由)

※ここへ記入した自己評価がそのまま成績になるわけではありません。

評価 評価の観点	科目の 到達目標	S 100～90点	A 89～80点	B 79～70点	C 69～60点	D 59点以下	評価
知識・理解	神保町の状況を調査分析し、十分理解した上で有効なイベント企画を立案できる。	調査分析が完璧にでき、それを基に新しい発想の素晴らしい企画が立案できている。	調査分析が良くでき、それを基に良い企画が立案できている。	調査分析ができ、それを基に新しい企画が立案できている。	調査分析はまあまあできたが、それを反映した企画が立案できていない。	調査分析が不十分で街の状況を把握できず、外的に有効な企画が立案できていない。	
技能	素人の方にも分かりやすく美しいプレゼンテーションができる。	企画内容が的確に反映された内容で、素人の方にも分かりやすく美しいプレゼンテーションができている。	企画内容が反映された内容で、素人の方にも分かりやすく美しいプレゼンテーションができている。	企画内容が反映された内容で、分かりやすいプレゼンテーションができている。	企画内容はまあまあ反映された内容となっているが、美しいプレゼンテーションができていない。	企画の内容がまったく表現されず、汚く分かりにくいプレゼンテーションとなっている。	
思考・判断・表現	グループ作業の中で、役割分担をしっかりと決め、みんなで意見を統一しイベント企画に必要な物を適切に計画できる。	グループ作業において十分協議を繰り返し、みんなが意見を統一しイベント企画に必要な物を適切に計画できている。	グループ作業の中で、役割分担をしっかりと決め、みんなが意見を統一しイベント企画に必要な物を適切に計画できている。	役割分担も、みんなの意見統一もでき、イベント企画に必要な物が計画できている。	役割分担も、みんなの意見統一もまあまあできたが、イベント企画に必要な物を適切に計画できなかった。	役割分担をしっかりと決まらず、みんなの意見もバラバラで統一できず、イベント企画に必要な物を適切に計画できなかった。	
関心・意欲・態度	グループ内で自ら進んで作業を行うことができる。	グループ内でリーダーシップの役割を果たし、率先して作業を行うことができた。	グループ内でリーダーシップ的な役割を果たし、率先して作業を行うことができた。	グループ内で自ら進んで作業を行うことができた。	グループ内で言われたことしかできず、自ら進んで作業を行うことができなかった。	グループ内の他のメンバーに任せっきりで作業を行わなかった。	

図-4 自己評価レポートシート

に合いそうな桜の提案ができた。

・今回の授業で自分の至らない点や問題点が
多々ある事がグループワークをした事でわかつた。これからは就活等社会生活に役立てたいと
思う。

・グループでデザイン班、建築班、イベント班
と分かれ作業をし、私は建築班でプランを考え
た。五人での作業だったが、全員で意見を出し
合い、計画に合ったプランを考えられたと思う。
また、そのプランを他のチームにも説明し、意
見をもらい反映されることができた。

・作業に関して、それぞれのチームがグルー
プ分けをし作業を分担することで効率的に作業
を行いました。都度、グループで意見の共有、進
捗を確認し合い、計画的に作業ができていたと
思います。模型、チラシ、パワーポイントなど、
グループでじっくり話し合いを重ねた上で、見
やすさわかりやすさを配慮した発表ができた
と思います。

・1つ目の課題に引き続き、班で協力して行
うことができました。少ない時間の中で役割分
担をして、作業を進めることでスムーズにでき
ました。またそれぞれの得意分野を活かせるこ
とができ、班員から刺激を受ける機会も多くあ
りました。まわりのみんなから学ぶことができ
てよかったです。班の中では模型作りを積極的
に行いました。

3-3. 最終発表会におけるワークショップ形式 の地域連携型授業・PBL（問題解決型授業） によるコミュニケーション能力とプレゼン テーション能力の向上。

最終発表会は地域の方々をお招きし行った。
2016年度39名、2017年度13名、2018年度25名と
多くの方々に出席いただき貴重な意見をいた
だいた。学生たちは建築・デザインを専門としな
い一般の方々に、いかに提案の内容がわかりや
すく伝わるかを考えプレゼンテーションを行っ
た。最終のアンケート結果からコミュニケー
ション能力とプレゼンテーション能力の向上に

役立ったと考える。また、これからの学生たち
のプレゼンテーションにも役立つ様々な貴重な
意見をいただき、地域との連携が図れた。



写真- 1 最終発表会の様子



写真- 2 最終発表会の様子

また、アンケートでは

・「知識・理解」(図- 5 棒グラフ黒色)

神保町の状況を調査分析し、十分な理解をし
た上で有効なイベント企画が立案できる。

・「技能」(図- 5 棒グラフ白色)

素人の方にも分かりやすく美しいプレゼン
テーションができる。

の2項目で、それぞれ「S・A・B・C・D」の
5段階で評価をしていた。図- 5がその
結果の一部である。B以上が「知識・理解」で
約80%、「技能」で約75%と概ね高評価だった。

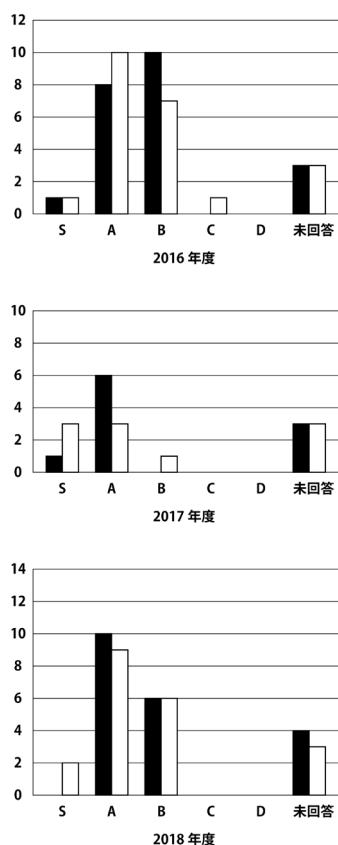


図- 5 年度毎の評価グラフ

アンケート自由記述による評価より一部抜粋。

- ・全グループの企画それぞれ良いアイデアがあると思います。実現してほしいです。
- ・アイデアは楽しいものばかり→どうやって発信していくか？をもっと考えてゆくべき。
- ・一工夫で大きく前進します。皆様の熱意は協働するイベントで可能性高まります。
- ・既存の古い歴史あるお店とデザインの関連性を示していくと、さらに良いと思う。
- ・既存の建物を活かすというコンセプトが良かった。スクラップ&ビルドではなく、今を最大限に伸ばす良さに感心しました。
- ・行政の認可に関わることなので実現にはハー

ドルが高いのではないかと。照明や椅子のデザインは素晴らしいと思います。

・プレゼンテーションが長いかも。メニューブックはもう少し……。ドライブインシアターのように楽しそう。

・それぞれ斬新でなかなか興味深かった反面、土地・場所を借りるにあたっての賃料建物の強度、メンテナンス、運営等の詰めに不安を感じます。ただし、これからも常に若い方々の感性で神保町の活性化と一緒に考えていただくことを強く望みます。

・みなさんの発想は楽しく具体的だが、計画の細部を詰めると現実味が帯びてくるのもう一息。なにか一つでも実現すると良いと思う。

・調査に対しての数字を入れた方が現実的である。

3-4. ルーブリック導入による成績評価の可視化

成績評価に前述の「ルーブリック」を導入することで学習成果の多面的な評価を行うことができた。ルーブリック導入により、「学習成果の達成目標・得られる成果」の評価の観点が明確になり、学生がそれを目標にチームでしっかりと議論し、役割分担を行い演習に自発的に取り組む姿勢が確認された。建築・デザインには解答がない。そのためルーブリック評価を授業ガイダンス時に事前に示したことで、どの程度達成すればどのような評価が得られるかの指標となり、能力の習熟度と理解度における学生たちの自己評価に役立ち、ある程度の可視化がはかれたと思う。演習はチームで行うため作品としてはチームの評価になるが、終了時に自己評価を行った。各年度の学生と教員の評価は以下の通りの結果で、学生と教員の評価は近く適切な指導、フォローができたと思われる。また、この授業は建築・デザイン学科の専任教員すべてが関わることから指導方針を均質化することができた。

地域連携とルーブリック評価を用いたワークショップ型演習

表- 1 ルーブリックに基づく成績評価結果

「建築&デザイン総合演習」自主評価レポート
ルーブリックに基づく成績評価結果

評価の観点	科目の到達目標	2016					2017					2018				
		成績評価 (レターグレードの該当割合%)					成績評価 (レターグレードの該当割合%)					成績評価 (レターグレードの該当割合%)				
		S	A	B	C	D	S	A	B	C	D	S	A	B	C	D
知識・理解	神保町の状況を調査分析し、 十分理解した上で有効な小 さな空間を立案できる。	15.4%	69.2%	15.4%	0.0%	0.0%	8.1%	55.1%	33.8%	2.9%	0.0%	25.0%	52.3%	15.9%	2.3%	0.0%
技能	素人の方にも分かりやすく 美しいプレゼンテーション ができる。	30.8%	38.5%	23.1%	3.8%	3.8%	2.9%	36.8%	52.2%	8.1%	0.0%	18.2%	43.2%	29.5%	4.5%	0.0%
思考・判断・表現	グループ作業の中で、役割 分担をしっかりと決め、みん なで意見を統一しイベント 企画に必要な物を適切に計 画できる。	26.9%	46.2%	23.1%	3.8%	0.0%	0.7%	57.4%	39.7%	2.2%	0.0%	34.1%	50.0%	11.4%	0.0%	0.0%
関心・意欲・態度	グループ内で自ら進んで作 業を行うことができる。	11.5%	26.9%	57.7%	0.0%	3.8%	5.1%	44.1%	47.1%	3.7%	0.0%	22.7%	38.6%	31.8%	2.3%	0.0%
総合		41.2%	45.2%	29.8%	19.0%	19.0%	4.2%	48.4%	43.2%	43.0%	0.0%	25.4%	46.0%	22.0%	3.0%	0.0%
		66.4%					52.6%					71.0%				
教員最終評価		7.7%	61.5%	26.9%	7.7%	0.0%	0.0%	42.9%	50.0%	7.7%	0.0%	6.8%	70.5%	18.2%	4.5%	0.0%
		69.2%					42.9%					77.3%				

表- 1 のルーブリックに基づく成績評価結果を見てみると、2016・2018年度は学生・教員共にS・A評価の割合が高く、2017年度に関しては割合が低い。この評価割合から教員が付ける評価と学生自身の評価には相関性があると考えられ、この演習におけるルーブリック評価は効果的だったのではないかと考える。また、この演習のすべての到達目標について9割以上の学生に対してB以上の評価を与えることができた。

4. まとめ

この演習の中で生まれたゆるキャラ「じんぼうチョウ」(写真- 3)はブックフェスティバル、東京マラソンなどに毎年参加、地域に認知され交流のきっかけとなっている。また、今後も地域連携センターが主宰する千代田区イベントの応援キャラクターとして場を盛り上げるほか、学内・学外と地域活性化の一助となるよう活動予定である。

ルーブリックに示した学習目標と地域への発進と連携において以上のように十分な成果が認められたと考えることから、本計画の目標は達成されたと考える。

以上の成果を生かし、今後もこの演習を発展させていきたいと考える。



写真- 3 ゆるキャラ「じんぼうチョウ」の着ぐるみ